

滋賀の文化情報誌
デュエット
Duet

2024 夏 vol.149

特集

新しい琵琶湖文化館の 開館に向けて

私の出版体験

夫が遺した原稿を2冊の本に

INFORMATION STATION 催し案内 2024 夏

MYBOOK 自費出版物の紹介

SUNRISE BOOK PRESS サンライズ出版の新刊案内





特集

新しい琵琶湖文化館の開館に向けて

令和9年(2027)12月の開館が予定されている新しい琵琶湖文化館の基本計画の概要が公表されました。滋賀県の文化財の中核拠点となる同館の設備や機能について、現在の滋賀県立琵琶湖文化館の皆さんにお聞きました。

■滋賀県立琵琶湖文化館（休館中）

住 所 大津市打出浜地先

連 絡 先 TEL 077(522)8179 FAX 077(522)9634

E-mail: biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

■新しい琵琶湖文化館

場 所 大津市浜大津五丁目

建 物 地上4階建 RC造（一部S造、SRC造）
建築面積 2,350㎡
延床面積 6,630㎡

開館までのスケジュール

令和5年度 (2023)	令和6年度 (2024) 7月(現在)	令和7年度 (2025)	令和8年度 (2026)	令和9年度 (2027) 12月
	設計	建設	開館準備	開館

取材／編集部 写真／辻村耕司

イメージ図 左上：展望テラス 右上：外観・北側
下：近江の文化財に親しめるフリースペース
(3点とも滋賀県提供。本記事のイメージ図等は設計進捗により変更の可能性があります)



新しい文化館は、三つの機能をもちます。 ミュージアムとなります。



滋賀県立琵琶湖文化館
学芸員

まんねん か な こ
萬年香奈子さん

滋賀県立琵琶湖文化館
学芸員

たけうちさとみ
武内里水さん

滋賀県立琵琶湖文化館
主任学芸員

たざわ あずさ
田澤 梓さん

滋賀県立琵琶湖文化館
主任学芸員

わすみこうすけ
和澄浩介さん

滋賀県文化スポーツ部
文化財保護課 参事
文化財活用推進・
新文化館開設準備室

くも で やすひろ
雲出泰弘さん



↑休館中の滋賀県立琵琶湖文化館

官民双方の得意を活かす「PFI手法」を採用

琵琶湖文化館は、休館してから何年になりましたか。

雲出 平成20年（2008）4月から休館しましたので、16年が経ちました。

田澤 30代の人だとぎりぎり入館したことがあるくらいですので、琵琶湖文化館のことをご存じない方がたくさんいらっしゃるかと思います。当館は、昭和23年（1948）設立の滋賀県立産業文化館を前身として、昭和36年（1961）に美術館・博物館・水族館、文化財受託庫、展望閣を備えた総合博物館として開館しました。ですから、開館して63年になります。

開館した当時は一種のレジャー施設のようなものとしてとも賑わいがあったのですが、その後、近代美術は県立近代美術館

※1 PFI Private Finance Initiative（プライベート・ファイナンス・イニシアティブ）の略。公共施設の設計、建設、維持管理や運営に、民間の資金とノウハウを活用する事業手法。
※2 コラボしが21 県下の商工団体、労働福祉団体の拠点として平成16年（2004）竣工。

（現在の県立美術館）に、水族部門は県立琵琶湖博物館に移管されました。県の財政状況の悪化や施設の老朽化などの理由により休館し、いまに至っています。

雲出 休館中も、館外での収蔵品の展示と情報発信などをできる範囲で行ってきました。ただ、休館が長期化したこともあり、滋賀県の文化財についてご関心のある方には、たいへんご心配をおかけしてきました。紆余曲折はありましたが、ようやく新しい文化館を開館しますというご報告ができる状態になりました。まず、この機会に休館中の文化館、計画中の新しい文化館に対してさまざまなお力添えをいただいた皆さんに感謝申し上げます。

——昨年、入札があつて、10月に落札業者と契約が結ばれ、開館は3年半後ですね。

雲出 令和9年（2027）12月にオープン予定で、PFI手法という事業方式がとられます。設計・建設・維持管理、一部の運営を一括して、民間の事業者をお願いする方式です。滋賀県内では、「コラボしが21」^{※2}も同じ方式がとられたかなり早い段階の例で、近年だと「滋賀ダイハツアリーナ」などでも採用されています。

美術館・博物館としては、県内では初めてで、全国でもまだ数えるほどしかないはずで、代表的なところでは神奈川県立近代美術館。修繕になりますが、福岡市美術館。新規の設立館では、来年春にオープン予定の鳥取県立美術館がそうです。

この方式のメリットは、設計・建設を一括発注することで、維持管理・運営を含めた総合的かつ合理的な施設計画をつくることのできる点です。また、役割分担上では、収蔵品や寄託品の受け入れ、保管、展示のような行政が得意とする部分は県が直接担当し、建物の維持管理や警備業務、集客や観光案内など、民間のノウハウが期待できる部分は民間に願います。

設計の段階で、学芸員の皆さんが希望をお出しになったりしたのですか。

和澄 先に要求水準書という設計・建設後の運営まで含めた膨大な仕様書にあたるものを作成して、事業者の方々に示しました。例えば、展示室と収蔵庫の大きさはこれぐらい、収蔵庫内の温度と湿度の設定はどれだけにといったことが書かれています。これに基づいて、事業者の側からも提案が出されます。最終的に決定した事業者さんとは、その後も2週間に一度ぐらい設計会議の場をもうけて、館の学芸員、滋賀県の担当者、事業者が協議してきました。

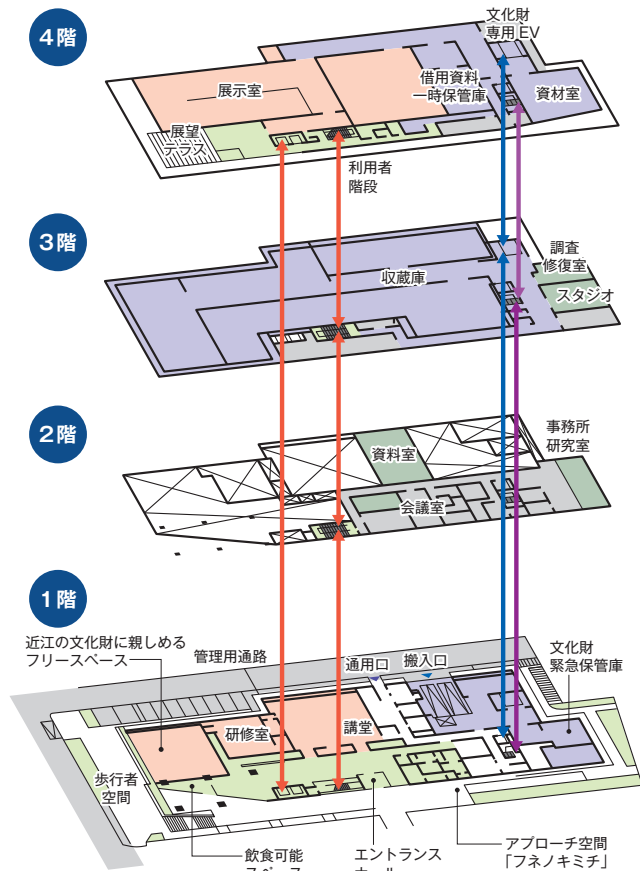
PFIで特徴的なのは、設計業者と県だけで設計を進めるのではなく、建設、管理、運営の各担当会社にも協議の場に同席して

設計コンセプトは「湖国の夢と滋賀の宝を未来に伝える希望の船」

外観のイメージ図が公表されましたね。

和澄 船のイメージです。最近の博物館施設はだいたいそうなのですが、光が入ってはいけない場所も多いので窓がほとんどありません。船形を2層積んだ巨大な2階建てに見えますが、実際は4階建てです。

雲出 建物は、「湖国の夢と滋賀の宝を未来に伝える希望の船」というコンセプトです。立地が大津港からすぐであることに加え、その中に文化財1800件、点数にして1万点を超える収蔵品を、浸水想定、耐



↑新しい琵琶湖文化館の階層平面図

もらい、みんなで設計を考えるとこです。

そのため、トータルで設計をやることで、使い勝手のよい建物をつくることができます。設計図を見た建設会社が「こんなの無理!」というような設計にはならないわけです。

震の面でも安心な建物で運んでいくというイメージです。

そう聞くと、北側からのイメージ図は「**ノアの方舟**」みたいですね。

雲出 1階に無料ゾーンとして、常設展代わりに誰もが気軽に入っていただき、近江の文化財に親しめるスペースを設けます。受付と講堂・研修室があり、貸館もされる予定です。2階が事務部門で、3階がまるまる収蔵庫、一番上の4階は展示室と展望テラスです。

今年度末には建設が始まるのですね。

雲出 はい。ほぼ丸2年かけて建設され、令和9年度から開館準備を始めます。

和澄 スケジュールをご覧になって新館の着工からオープンまで、ずいぶん期間があるなと感じになると思いますが、できたばかりの躯体コンクリートや内装材からは文化財に悪影響を与えるアンモニアや有機酸などの有害物質が出ます。文化庁の指針では、国宝・重要文化財を入れる収蔵庫や展示室を建設した場合、「枯らし期間」といって2回の夏を越えて、温度・湿度とともに有害物質などの数値が安全と確認できて初めて文化財を搬入することができます。つまり、令和9年夏までが「枯らし期間」となります。

なるほど。

和澄 建物の内部は、展示室が約800㎡、収蔵庫が約1500㎡ですので、収蔵庫は

展示室の2倍近い広さがあり、国宝・重要文化財を収蔵できる施設としては県内では最大、全国でも有数の規模になります。展示室は、それほど広くありませんが、基本的に、レプリカなどではなく、本物だけをご覧いただく方向を考えています。

そもそも指定文化財の場合、展示期間に制限があるので、頻繁に展示替えをする必要があります。展示替えをたくさんする分、多くの本物をご覧いただければと思っています。

収蔵庫は現在の3倍ほどの広さになります。今後、社寺や地域で保管なさっている文化財が維持できず、当館に寄託なさるケースがかなり増えてくるものと考えられるので、それを見越して、開館後30年間は、寄託や寄贈に対応できるだけの広さを設けました。

雲出 ただし、30年分のスペースというのは、あくまでも試算であって、そのスペース

一つ目は、ミュージアムとしての従来の博物館機能

——展示や活動についての基本方針にあたるものも決まっているのですか。

雲出 「近江の文化財で“つなぐ”“ひろく”未来の滋賀」を基本理念に、三つの機能をもつものとなりました。一つ目は文化財の収蔵・展示など従来の博物館機能。二つ目が地域の文化財のサポートセンターの機能。三つ目が文化観光の拠点となるようなビジターセンターの機能です。

建物の計画段階から、単なる博物館の建て直し、再開館ではなく、地域文化財のサポートも博物館自身がやっていきますという意思表示のもと、いろいろな計画を進めています。

——まず二つ目の、展覧会など従来の博物館機能についてはいかがですか。

スをもつてしても、すべての寄託を受け入れることは難しい側面はあります。

地域の文化財は、それぞれの地域の誇りでもありますから、まずは地域で守っていただくことが基本ですし、そのサポートもしていきたいと思っています。それでも、これから少子高齢化にもなって、現状維持が難しくなる地域もあると予想され、そのセーフティネットの役割を果たします。

武内 そのほか災害などの際に文化財を一時的に預かることを想定し、収蔵品保管の収蔵庫とは区分した「文化財緊急保管庫」も設ける計画です。

田澤 建物の話題としてつけ加えると、約200人が座れる講堂が1階につくられます。ここに滋賀県立産業文化館から琵琶湖文化館別館に引き継がれた杉本哲郎^{※3}の壁画「舍利供養」が設置され、公開日にご覧いただけるようになります。

二つ目は、子どもたちにとっての博物館機能

田澤 私は、まず子どもたちに来てもらいたいなと思っています。文化財を守り、次世代につないでいくためには、子どもたちが文化財に親しみ、大切にする意識をはぐくむ必要があります。新しい文化館にはその役割があると考えていまして、1階の無料スペースが近江の文化財について気軽に学んでもらえる場所になればと思っています。4階の展示室はちよつと専門的な内容の展覧会が多くなると思いますが、なるべく興味を持ってもらえるしかけをつくり、また夏休みなどには、子ども向けの展覧会も企画できればと思っています。

和澄 休館する前は文化館も、滋賀県立びわ湖フローティングスクールの学習船^{※4}「うみのこ」による寄港地活動の拠点の一つに

※3 杉本哲郎（1899～1985）大津市生まれの日本画家。インド古代壁画様式に影響を受けた宗教画で国際的な名声を得る。

※4 滋賀県立びわ湖フローティングスクール 大津港に所在する滋賀県の機関で、学習船「うみのこ」による宿泊体験学習を実施。

なっていたので、それを引き継いでいければよいですね。

田澤 時間的には、4階の展示まで見てもらうのは難しいかもしれませんが。

雲出 でも、フローティングスクールの対象は小学5年生ですよね。社会科で歴史を学ぶのは6年生からだから。

和澄 小学生に、文化財の魅力を理解してもらったり、なるほどと思ってもらったりするのは、簡単ではないと思うんですが、やっぱり博物館に来たことを記憶にとどめておいてほしいですね。「なんか、怖い顔をした仏さんがいた」とかでもよいので。

——子どもは仏教美術などを怖がりやすいですね。私も家の仏間が怖かったですから。

和澄 大人になっても覚えているような強い印象を残せば、それだけで成功なのではないでしょうか。いろんな感受性を持った子どもたちが、全員「わあ、よかった」と思うのは難しいでしょうか。

田澤 じつはうちの子も1歳、2歳のころに連れて行き、作品を「これは○○だよ」と説明すると、その言葉を繰り返してくれたのですが、5歳の今は暗い展示室が本当に苦手なようです。

——一番若手の萬年さんは何がありますか。

萬年 私は福島県出身で、大学も宮城県だったので、4月から滋賀県で暮らすようになったばかりの者です。

滋賀県に生まれ育った人や長く住んでいる人に、「琵琶湖、すこいよね」とか、「歴史がすごいよね」と言っても、「あつ、そ

うなんだ……」という感じで反応が鈍かった経験があります。私のような外から来た人間が、すごいとかおもしろいと思うところを伝えていくことで、これまでとは違う視点を提供できるのではないかと考えています。

和澄 滋賀県民にとっては当たり前だけれど、外から見るとすごいところがいっぱいあるとわかれば、地域の文化財を守る動きにもつながっていくと思います。平成28年(2016)に東京国立博物館で、「特別展平安の秘仏―滋賀・櫛野寺の大観音とみほとけたち」と題して、甲賀市にある櫛野寺

二つ目は、地域の文化財のサポートセンターの機能

——二つ目の文化財のサポートセンターとしての機能については、いかがですか。

和澄 じつは休館以前の最初期から取り組んではおり、同様の活動は他の博物館でもやっておられます。本来的な博物館の機能の一つであるはずののですが、あまりオモテに現れることがなく、博物館職員が使命感でやってきたという面が多分にありました。それを設立の理念として掲げる館はほとんどなかったんです。

基本計画の作成段階で委員を務めていただいた外部の先生方にも、「これを最初から宣言していることは、すごいことですね」と、ほめていただいたものです。

——すると、館の外へ、地域に出かけられることが多くなるといふことでしょうか。

和澄 はい。博物館Ⅱ展覧会施設ととらえられがちですが、本来の博物館の役割のうち、展覧会是一部というか、表面であって、その背後に多くの部分があります。

サポートセンターとしての役割を果たすことによって、その文化財のジャンルの研究が進むこともあるでしょうし、サポート

の本尊である十一面観音菩薩坐像(重文指定の坐像としては日本最大)など20体が公開されたことがあります。観覧者は20万人を超えました。ところが県内でも、「櫛野寺ってどこ?」「何て読むの?」という反応の人が多いぐらい、知名度の低い存在でした。

休館後すぐぐらいの平成23年(2011)に韓国の国立中央博物館で開催された琵琶湖周辺の仏教信仰に関する展覧会もとても好評でした。ただ、滋賀県民の多くは、そうした展覧会が海外で開催されたということ自体を知らなかったという面があります。

させていただいた文化財を起点にして、これまで日の目を見なかった地域文化財の掘り起こしが進んだり、新たな展覧会の企画につながるようなことも期待しています。

そうした展覧会ができるまでの過程というのは、これまで目に見えなかった部分でもあります。これまでの博物館は、よそ行きの姿というか、展覧会のきれいに仕上がった面だけをオモテに出してきました。最近では、いろんな博物館が調査風景をSNSで発信したり、動画共有サイトにアップして公開しています。学芸員が地域に出て

行って、地域の人たちと関わりを持ったうえで展覧会をやっているという舞台裏を発信していくことも大切かなと考えています。

——現在も文化館さんのホームページにある「あきつブログ」というコーナーで、所蔵品の貸し出しや県内への出張講座のようすなどを紹介なさっていますが、まだまだオモテに出ない活動があるのでしょうかね。

和澄 たとえば、私は「文化館でおすめの収蔵品はありますか」と尋ねられたとき、地域のお寺の法要などで現在も実際に使わ

令和5年度琵琶湖文化館地域連携企画展(第4弾)として滋賀県立安土城考古博物館で開催された「近江の文化財を継ぐ―修理・複製・復元―」



れている寄託品をお答えしてきました。私たちは「一時返却」と呼んでいるのですが、文化財にとっては本来の場に戻される期間にあたります。

年間10件以下と数は多くありませんが、毎年だったり、お寺での特別公開の年に「一時返却」される文化財があります。昨年も守山市にある大光寺の誕生釈迦仏立像(守山市指定文化財)という小さな仏像が、当館の前身である県立産業文化館に寄託されて以来、72年ぶりに一時返却されて秋のお彼岸の法要で檀家の皆さんに公開されました。新聞記事などにもなりましたが、館としてもっと発信していければよいなと思います。

田澤 武内さんが、昨年度に滋賀県立安土城考古博物館での地域連携企画展で担当された展覧会も、サポートセンター的な役割を発信する展覧会でしたね。

武内 そうですね。安土城考古博物館の学芸員と企画し、「近江の文化財を継ぐ」というタイトルで、修理、複製、復元の三つをテーマにあげて、文化財の保存に焦点を当てて紹介しました。

展覧会に出ている文化財は、人間にたとえれば健康というか、展示に堪えうるよう

な状態のものなのですが、文化財の中には長い時を経て、そうとう弱ってしまったものもあります。私たち学芸員はふだん目にしたリ、触れる機会がありますが、あまり保存状態に注目いただく機会がないと思います。それらをどのように守り、後世に適切に引き継ぐのかということをお伝えするために開催したものです。

——そうした活動自体が、県民にまだまだ知られていないということですね。

武内 現在は県の文化財保護課にお寺や地域からご相談をいただいて、それを通して文化館がサポートに動くという受け身の体制です。積極的にこちらからサポートしま

三つ目は、ビクターセンターの機能

——三つ目の観光の拠点としての機能はいかがですか。

雲出 開館当時、湖岸を埋め立てたばかりだった館周辺はまだ開発されておらず、当館は総合レジャーランドのようなものとして県民に親しまれた施設だったとうかがっています。開館する新しい文化館も、子どもから大人まで多くの方に親しまれる施設になってほしいと思います。

滋賀県は全国有数の文化財保有県であり、滋賀県にとって文化財は一つの個性なんだということを含めて再認識していただき、文化財の拠点である新しい文化館が観光の案内も担えるよう、陸水交通の結節点である大津港に立地することになりました。

湖上交通とも協力的な館ですか。

雲出 はい。具体的なことはこれからですが、何かしらの共同企画、例えば船に乗って、琵琶湖に面した神社仏閣や観光地を巡ったりする、文化館基点の周遊プログラムを実現させたいと思っています。

和澄 滋賀県の文化財は京都と違って県域

す、お困りごとはありませんかと問いかかけ、一緒に問題を解決できるような体制が整えられないか。とても難しいことだとは思いますが、そういう体制ができるように努めています。

田澤 全国的にも最近、修復などをテーマとした展覧会が増えている印象です。能登半島地震の被災地に対する文化財レスキュー事業の一環として、愛知県から博物館の学芸員さんが派遣されたというニュースもあったり。

武内 修理・保存といった裏側に注目が集まってきたことは、新しい館の活動にとってもありがたいことだと思います。

三つ目は、ビクターセンターの機能

全体に広がっており、交通の便が悪かったり、予約しないと見られないようなところもあるので、個人でそれらを回るのは、結構大変です。そのネックとなっている部分を解消して参加いただけるようになれば、希望者はたくさんいらっしゃると思います。

雲出 ただ、滋賀県の文化財の特性として、生活に密着しているという点があるので、京都、奈良のように観光地として消費されるのではなく、所在地の地域の方のご理解もいただけるかたちをと考えています。

田澤 そうした観光プログラムのなところもありつつ、先ほどお話しした一階の気軽に学べるフリースペースが、観光案内所のような役割も担います。

また、4階に展望フロアができるので、そこから望める比叡山などへも観光促進ができるのではないかと考えています。

和澄 比叡山はもちろん、三上山^{みみやま}、晴れた日であれば遠く伊吹山だって見えます。冬の晴れた日だったら、本当に福井との県境ぐらいまで見えます。県の一番南から一番

※5 瀟湘八景 瀟湘は、中国の湖南省を北流する瀟水と湘江が合流する洞庭湖に近い辺りを指す。北宋時代にこの地域の8か所の名所が山水画に描かれ、室町時代の日本でもこれにならって琵琶湖の名所を選んだ「近江八景」が生まれた。

北が見えるので、展望スポットとしてもおすすめです。

雲出 観光に関する発信や、外国人向けも含めた観光案内所を運営するには、要件と認定制度があります。その点も、PFI事業者にお願いをしたうえで受注いただきました。観光や集客には民間のノウハウを活用していただくようお願いしています。

その関連では、月に一度、集客のためのイベントを開催することをお願いしています。これは滋賀の魅力を気軽にみんなで見たいという思いで、さらに実際に現代のその場に足を運んで、昔の光景に思いを馳せていただきたいと思っています。

例えば、琵琶湖の周りに「近江八景」という画題がありますが、その元ネタとして中国の「瀟湘八景^{※5}」というものがあります。中国でも琵琶湖のように大きく、信仰を集めていた湖に八景が選ばれ、琵琶湖にも同様の見立てがなされた過程にとっても興味があります。

中国の瀟湘八景と比べることによって、東アジア全体から琵琶湖を感じるといふ視点も持っていただけと思うので、近江八景を扱った絵画作品の展覧会はいつかやってみたいですね。

和澄 もちろん現状はまったく変わってしまっていますが、それぞれの土地に時代の変遷、歴史を見るといえるのは、地域・地

方博物館にとって重要な視点だと思います。
また、「ああ、きれいな絵だったね」で終わらず、何かを持って帰ってもらって、

他館からの企画や社寺からの提案も受け入れる姿勢で

——これまでのお話につけ加えるようなこととはございますか。

雲出 地域連携企画展については、これまで博物館や資料館を会場に催すかたちでしたが、昨年4月には近江八幡市の長光寺^{ちやうこうじ}というお寺で、当館で調査させていただいた一切経という鎌倉時代に書写された經典を公開し、当館副館長による講演会も開催しました。こうした県内の社寺と文化館とのつながりは、福祉の分野でいう「アウトリーチ^{※6}」という言葉を使うと強すぎるかもしれませんが、地域への出張サービスのようなものとして続けられればと考えています。休館中のため自館での展示ができなかつ

次につなげるような展示が、今後は重要になってくるのではないのでしょうか。

た時に、地域あるいは他の博物館・美術館に展示の連携で助けていただいた経験は、見方を変えれば、当館のレガシー（遺産）でもあります。文化館の学芸員が外に出て行って相談を受ける、それを展示に活かすといった循環が、新しい館のオープン後も引き継げればよいと思っています。

和澄 基本計画でも、県内の博物館施設のハブ^{※7}みたいな役割を担う話をしていて、それが地域連携企画展というかたちで具体化されていました。新しい館ができて自前で展示ができるようになったとしても、文化館側から外に出て行って展示をする地域連携企画展というのは何らかのかたちでやっていきたいと話しています。

逆に、他の市町立博物館の側で文化館での展示を企画していただくことも検討してよいと思っています。国宝・重要文化財を展示できる博物館を持っていない市町から企画に参加していただき、文化財を所蔵するお寺も加わっていただいて展示を組み立てるとか。

令和4年（2022）に当館の地域連携企画展として野洲市歴史民俗博物館（銅鐸博物館）で開催された「近江湖南に華開く宗教文化―野洲・守山の神と仏―」の場合、野洲市をふくめた旧野洲郡という枠組みとしたので、博物館施設を持っていない守山市にある文化財を展示することができました。銅鐸博物館の学芸員さんだけでなく、守山市の文化財保護課の職員さんとも一緒に企画・調査・展示を行い、非常に充実した内容となりました。

※6 アウトリーチ 英語の「Outreach」＝手を伸ばすこと。から派生した言葉で、主に社会福祉の分野で必要な助けが届いていない人に、公的機関が訪問支援などを行うこと。

※7 ハブ 英語の「Hub」＝車輪の中心部。から転じて、ネットワークの中核、集約点のこと。

←令和4年に野洲市歴史民俗博物館で開催された同館と守山市、琵琶湖文化館による地域連携企画展「近江湖南に華開く宗教文化」



ハブとしての機能とか役割と言ってしまうと、ガチガチになってかえって活動に制限が生じてしまう面もあるので、できるだけ自由に動ける緩やかな協力体制を続けられればと思います。現状の地域連携企画展には緩いところがあるおかげで、結構自由に動けるのだとも感じています。

雲出 この記事をお読みにになり、新しい文化館の取り組みとご一緒できる企画などありましたら当館へご意見をお寄せください。すべて実現可能とは言えませんが、検討させていただきます。

最後になりましたが、新しい文化館の整備や活動にあたっては、今後、あらためて寄付等をお願いすることを考えています。現在も「滋賀応援寄附」で検索いただくと、滋賀県のホームページに文化財に対する寄付のメニューがありますので、ぜひご覧いただければと思います。

引き続き、開館までの動きに注目させていただきます。

(2024・6・3)



→令和5年4月2日、近江八幡市の長光寺での地域連携企画展の関連行事として催された講演会「近江国蒲生下郡長光寺の一切経について」のようす
(滋賀県立琵琶湖文化館提供)

『昭和のグラフ誌を飾った近江の歌枕 信楽・安土城・幻住庵』 『地球一周してみたら 聞こえた大自然と人々の鼓動』

編者 溪^{たに} 久^{ひさ}さん（滋賀県大津市在住）

著者 溪^{いづみ} 逸^{いつ}哉^やさん プロフィール

1934年、滋賀県甲賀市信楽町生まれ。1960年、滋賀大学教育学部卒業後、県立高校などに勤務。1995年、石山高校長定年退職。その後、県立体育館長、佛教大学・滋賀大学教育学部講師、民生児童委員などを務める。2019年1月逝去。

半世紀ぶりによみがえった セピアの写真と文章

2019年に84歳で亡くなった
溪逸哉さんの遺稿を、妻の久さんが
2冊の本にまとめた。

逸哉さんは高校教師だった
1970年代、滋賀県内の史跡に
関する文章と写真をグラフ誌に何
回か投稿していた。遺品整理中に
見つけた掲載誌は赤茶けて破れそ
うだった。

「なんとか一冊になりませんか」

サンライズ出版に持ち込み、掲
載当時の趣きを残しつつ、多くの
人に手に取ってもらえるようなセ
ピア調の写文集として再構成。
『昭和のグラフ誌を飾った近江の
歌枕 信楽・安土城・幻住庵』と
して半世紀ぶりによみがえった。

夫婦の旅のメモリアルブック

2013年、逸哉さんは胃がん
による胃の全摘出と、難病「後
縦^{いしもちゅうかきょう}軟^{なん}骨^{こつ}骨^{こつ}化^か症^{しょう}」の手術を受けた。
術後のリハビリを兼ね、2015
年、夫婦で世界一周に参加。旅に
魅了され再参加を申し込んだが、
逸哉さんの病が再発し、かなわな
かった。

逸哉さんは旅の記録をエッセー
にしていた。写真も残っている。

「夫の思いを形にしておきたい」

写真92点（うちカラー56点）を
掲載した旅行記『地球一周してみ
たら 聞こえた大自然と人々の鼓
動』は夫婦の記念碑にもなった。
「2冊とも思い出深い本になりま
した。書店にも並べていただいで
感無量です」



夫婦で参加した世界一周の歩
旅の記録。1320円（税込）



グラフ誌「フォト」掲載写真と
文章を収録。2200円（税込）



滋賀県庁で
記者会見

東近江地域ゆかりの書画を厳選して展示します。奈良・平安時代の古写経から、西郷隆盛、渋沢栄一といった著名人の書まで、名品の数々をお楽しみください。

入館料：一般1500円、高校生・学生1000円、小・中学生100円

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日）

お問い合わせ先：TEL 0748 (48) 4141

令和6年度 滋賀の文化財講座

花湖さんの 打出のコヅチ



▶第4回 隈研吾建築と滋賀県

8月20日(火) 14:00～15:30

講師 田澤 梓（滋賀県立琵琶湖文化館主任学芸員）

▶第5回 建造物文化財修理の最前線

—国宝延暦寺根本中堂・重文不動寺本堂を中心に—
9月18日(水) 14:00～15:30

講師 福吉直樹・長谷川聡子・坪田敏伴
（滋賀県文化財保護課）

▶第6回 中世絵画の山水表現

10月23日(水) 14:00～15:30

講師 萬年香奈子（滋賀県立琵琶湖文化館学芸員）

会場 コラボしが21 3階 大会議室

定員 200名 参加料 無料

▶第7回【解説付鑑賞会】地域連携企画展 「滋賀限定！近江ゆかりの書画」を楽しむ

11月13日(水) 14:00～15:30

講師 井上 優（滋賀県文化財保護課・琵琶湖文化館副館長）
寺前公基 氏（観峰館）

会場 観峰館 定員 40名

参加料 無料 ※別途、観覧料が必要。

●お申し込み方法

電話・FAX・Eメール（メールフォーム）による事前予約制（先着順）。

第7回のみ申込受付開始10月24日(木)～、
電話受付のみ

●お問い合わせ・お申し込み先

滋賀県立琵琶湖文化館

TEL 077 (522) 8179 FAX 077 (522) 9634

E-mail: biwakobunkakan@yacht.ocn.ne.jp

入館料：一般330円、高大生240円、小中生160円

休館日：月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日休館）、8月8日午後

お問い合わせ先：TEL 077 (521) 2100

第32回企画展示 湖底探検Ⅱ —水中の草原を追う—

7月20日(土)～11月24日(日)

滋賀県立琵琶湖博物館



（提供：滋賀県立琵琶湖博物館）

野生の水草は一本だけで生えていることはほとんどなく、同じ種類が集まって、あるいは違う種類が集まって草原を形成します。地上の草がそうであるように、背の低い草むらや、背が高く密生した大群落まで、水中にはさまざまな草原が出現します。

本展では琵琶湖での研究成果を中心に、水中の草原の姿や人との関わり、そして草原を構成する水草たちの生活を紹介します。
料金：一般300円、高大生240円、小中生150円

※別途、常設展示観覧券が必要です。

休館日：月曜日（祝日の場合、開館）

お問い合わせ先：TEL 077 (568) 4811

琵琶湖文化館地域連携企画展 滋賀限定！近江ゆかりの書画 —古写経から近代書まで—

9月21日(土)～11月24日(日)

観峰館



重文 寂室元光墨蹟

（退蔵寺蔵、琵琶湖文化館寄託）

休館中の琵琶湖文化館収蔵品の中から、

第94回企画展 京極高次

7月20日(土)～9月1日(日)

大津市歴史博物館

たかつく

近江の名門京極氏出身の京極高次。豊臣家と徳川家双方に縁戚関係があり、文禄4年(1595)に大津周辺を加増され、大津城主となりました。慶長5年(1600)の大津城の戦いで活躍したことは有名です。

本展では、大津にゆかりの深い京極高次の生涯を当時の史料をもとに追ひ、高次の実像に迫るとともに、彼を取り巻く一族についても紹介します。

入館料：一般800円、高大生400円、小中生200円
休館日：月曜日（祝日の場合は開館し、翌平日休館）、8月8日午後

■ギャラリートーク

8月1日(木)・22日(木)・29日(木)

14:00～(40分程度)

会場：企画展示室内

参加費：無料(当日有効の観覧券をご提示ください)

お問い合わせ先：TEL 077 (521) 2100

第95回企画展 JR 湖西線開業50周年記念特別展示 わたしの湖西線

7月20日(土)～9月1日(日)

大津市歴史博物館



開業日の西大津駅（貝塚恒夫氏撮影）

昭和49年(1974)7月20日に開業したJR(国鉄)湖西線は、今年で50周年を迎えます。本展は、江若鉄道から湖西線へのバトンタッチや湖西線開業当時の様子など、湖西線の歴史や特徴を紹介するとともに、沿線の人々や鉄道ファンが記録・保存した品々とそれぞれの思い出から、湖西線50年のあゆみや周辺の移り変わりを振り返ります。

ちーちゃんの花つれづれ わが家の花暦

谷口千夏 著
A5判並製本 総126頁 頒価1500円
問合先 米原市須川319(著者)

伊吹山の南、岐阜との県境に暮らす著者が、庭に咲く季節の花々を名前の由来や花言葉とともに紹介したブログを書籍化。(2024.1.25刊)



大原の庄の西の果てから

朝日地域の歴史編さん委員会 編
B5判並製本 総270頁 頒価3000円
問合先 米原市朝日521(矢野邦昭)

「大原の庄」と呼ばれた地域の西端に位置する朝日区の歴史を、灌漑用水「出雲井」、雨乞い太鼓踊り、「三献の茶」の逸話で知られる大原観音寺などの文化遺産を中心に紹介。(2024.3.31刊)



ジェロントロジー・コンシェルジュからの報告 老年学とシルバー人材センター

平田正男 著
B6判並製本 総164頁 非売品
問合先 甲賀市水口町春日521(著者)

「ジェロントロジー(老年学)」に関心を持った著者が検定試験に合格し、コンシェルジュの資格を得た経緯と、朝来市や京田辺市のシルバー人材センターで行った講演内容を収録。(2024.4.23刊)



近江日野谷 蒲生一族の戦国

ようの 丁野永正 著
B6判上製本 総262頁 頒価1500円
問合先 東近江市建部瓦屋寺町134-25(著者)
蒲生氏郷もすごいが、氏郷以前の祖先もすごいと気づいた著者が、その祖とされる藤原秀郷からそれぞれの時代における日野と蒲生氏の歩みを小説形式でたどる。(2024.3.20刊)



ふるさと伊野部のあゆみ 補遺 人々のくらしと正福寺

伊野部町自治会文化・広報委員会 編
A5判上製本 総196頁 非売品
問合先 東近江市五個荘伊野部町582(伊野部町自治会)
郷土誌3部作の最終巻にあたり、地域の自然と暮らしの民俗全般、唯一の寺院である正福寺の歴史と年中行事を紹介。(2024.3.31刊)



しまぐわ 島桑 江戸指物の世界

田崎泰二郎 編
A4判並製本 総120頁 頒価4500円
問合先 兵庫県丹波篠山市南新町14-1(編者)
明治後期から昭和初期にかけて、幻の銘木「島桑」を用い、指物職人が制作した工芸品に魅せられ編者が、120点余りのコレクションを集成したカラー図録。(2024.6.15刊)



BOOKS 図書館巡回展

わたしのまちの自費出版



近江八幡市立近江八幡図書館の展示風景

日本自費出版文化賞の受賞作品と、近隣市町在住の著者による自費出版物の展示を行っています。手に取って読むこともでき、図書館の所蔵図書は貸出可能です。

開催中～7月30日(火)
会場 近江八幡市立近江八幡図書館

9月5日(木)～22日(日) 予定
会場 栗東市立図書館

毎月第3土曜日午後は「自費出版相談会」

- 場 所 平和書店アル・プラザ彦根店(6FレンタルスペースB)
- 開催日 7/20、8/17、9/21予定

自費出版に関するお問い合わせ サンライズ出版 TEL 0749 (22) 0627

■関連フェア開催中：平和書店AP彦根店、同AP近江八幡店、本のがんこ堂アキア店(近江八幡)

算額の奥に広がる世界 ある算額の誕生余話

中西 隆 著
A5判並製本 総102頁 非売品
問合先 近江八幡市杉森町85(著者)
滋賀県と算研究会代表の著者が、東近江市伊庭町の大演神社に奉納された算額の誕生の経緯などを探る。(2024.6.30刊)



乗り鉄ときどき城巡り 巻之七 近畿編(後)

佐渡 滋 著
A4判並製本 各総166頁 非売品
問合先 大阪府吹田市五月が丘東6-B503(著者)
城好きの著者が、鉄道に揺られて各地の城跡を巡った写真紀行。巻之七は奈良・和歌山・兵庫の3県、「近鉄橿原線と大和郡山城跡」に始まる25篇を収録。(2024.6.30刊)





【漫画で解説】
西堀榮三郎の南極・山岳・品質管理
探検的精神で「未知」を切り拓く

東近江市西堀榮三郎記念探検の殿堂 編
A5判並製本 総224頁 1980円(税込)
初代南極観測越冬隊長を務めた西堀榮三郎の幅広い功績のうち、南極・山岳・品質管理の分野から、エピソード漫画を中心に紹介。

昭和のグラフ誌を飾った近江の歌枕
信楽・安土城・幻住庵

溪逸哉 文・写真／溪久 編
A4変形並製本 総80頁 2200円(税込)
1970年代のグラフ誌「フォト」に、著者が投稿して掲載された文章と写真を再構成して刊行。紫香楽宮跡や安土城跡など、半世紀前の滋賀の名所・旧跡の姿がよみがえる。

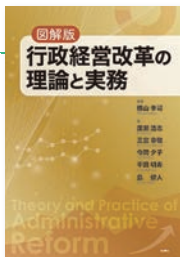


古代集落と地域開発
琵琶湖をめぐる川と平野と村

田中勝弘 著
B5判並製本 総256頁 5500円(税込)
河川が弥生時代から中世にかけての集落と地域開発に与えた多大な影響を追求するために、滋賀県下の発掘遺構から河道痕跡形成の段階の変遷を明らかにする例のない試み。

図解版 行政経営改革の理論と実務

横山幸司 編著
A5判並製本 総306頁 2200円(税込)
普遍的な行政経営改革の意義や手法をはじめ公会計による財務分析、自治体DX、BPOの推進など、行政経営改革に欠かせない最先端の内容を図表やイラストなどを駆使して解説。



表紙写真 新しい琵琶湖文化館 外観・西南側遠景 イメージ図（滋賀県提供）
編集後記 特集記事中の私の発言（6ページ中段）に出てくる琵琶湖文化館ホームページのコーナー「あきつブログ」。「あきつ」とはトンボの古名で、館のてっぺんにあった大トンボ（劣化のため昨年撤去）にちなんだマスコットキャラクター「あきつ君」のことです。記事中の連携企画展や講座などについて、写真入りでわかりやすく紹介されています。今年に入ってから、放送中のNHK大河ドラマ「光る君へ」関連の話題も多く、ドラマ鑑賞のお供にもおすすめです。



淡海文庫73
草津本陣風土記 田中房間書き

青木健作 著
B6判並製本 総176頁 1650円(税込)
東海道の宿場・草津宿で参勤交代の大名が宿泊した田中七左衛門本陣は、江戸時代の姿をよくとどめ国史跡に指定されている。田中家十五代当主に嫁いだ房さんが語る旧宿場町の昭和史。

淡海文庫74
明治の旧彦根藩士たち
近代化に尽力した人物史

野田浩子・井上幸治 著
B6判並製本 総184頁 1650円(税込)
中央大学を創立した増島六一郎、日本生命を創業した弘世助三郎など、明治初期の教育・実業・医療分野をリードした9名の旧彦根藩士を紹介。



聴導犬ポッキー
いつもいっしょ

いがらしけいこ さく／さかいゆきよ え
A4変形上製本 総36頁 2200円(税込)
耳の聞こえないけいちゃんが一番怖いのは一人で外出した時に後ろから鳴る自転車のベル。さまざまな音を聞き分ける聴導犬ポッキーとけいちゃんの暮らしを描いた絵本。

だれのかげ

新美南吉 作／西條由紀夫 絵
B5判上製本 総24頁 1650円(税込)
まちのまんなかにもるいかけを見つけた二人の子どもが、「さてこれはなんのかげだろう」とおもいました。するとスズメとポストが自分のかげだと言いあいました。それを聞いた街灯も口を出してきました。つづきは読んでのお楽しみ。



Duetの定期購読をご希望の方は、下記までお申し込みください。

〒522-0004 滋賀県彦根市鳥居本町655-1
サンライズ出版株式会社 Duet編集部
TEL (0749) 22-0627 FAX (0749) 23-7720
(振替) 01080-9-61946

インターネットでDuetがお楽しみいただけます。
<http://www.sunrise-pub.co.jp/>

お申込先